

貯法：気密容器  
遮光して室温保存  
使用期限：容器等に表示  
注意：「取扱い上の注意」の項参照

承認番号	(4AM)1232
薬価収載	1994年7月
販売開始	1993年2月
※ 再評価結果	1992年6月

外用殺菌消毒剤

滅菌製剤

# ステリクワン® W液0.1

STERICLON® W SOLUTION 0.1

- ※※【禁忌（次の患者及び部位には使用しないこと）】
- (1) クロルヘキシジン製剤に対し過敏症の既往歴のある患者
  - (2) 脳、脊髄、耳（内耳、中耳、外耳）  
[聴神経及び中枢神経に対して直接使用した場合は、難聴、神経障害を来すことがある。]
  - ※※ (3) 膈、膀胱、口腔等の粘膜面  
[クロルヘキシジン製剤の上記部位への使用により、ショック、アナフィラキシーの症状の発現が報告されている。]

※※【組成・性状】

〈組成〉

100mL中

クロルヘキシジングルコン酸塩 0.1g含有（0.1w/v%）。

※〈性状〉

無色～微黄色の澄明な液で、においはない。滅菌製剤である。

【効能・効果】【用法・用量】

効能・効果	用法・用量
手指・皮膚の消毒、手術部位（手術野）の皮膚の消毒、医療機器の消毒	クロルヘキシジングルコン酸塩として0.1%水溶液を用いる。
皮膚の創傷部位の消毒、手術室・病室・家具・器具・物品などの消毒	クロルヘキシジングルコン酸塩として0.05%水溶液を用いる。
結膜囊の洗浄・消毒	クロルヘキシジングルコン酸塩として0.05%以下の水溶液を用いる。
産婦人科・泌尿器科における外陰・外性器の皮膚消毒	クロルヘキシジングルコン酸塩として0.02%水溶液を用いる。

- (2) 本剤は濃度に注意して使用すること。
- (3) 結膜囊等特に敏感な組織に使用しなければならない場合には、濃度に注意し、使用後滅菌精製水で水洗すること。
- (4) 本剤を希釈して使用する場合は、調製後滅菌処理すること。

3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

※※(1) 重大な副作用

ショック（頻度不明）、アナフィラキシー（頻度不明）：ショック、アナフィラキシーがあらわれることがあるので観察を十分に行い、血圧低下、蕁麻疹、呼吸困難等があらわれた場合は、直ちに使用を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

	頻度不明
過敏症 <sup>※</sup>	発疹・発赤・蕁麻疹等

注) このような症状があらわれた場合には、直ちに使用を中止し、再使用しないこと。

4. 適用上の注意

(1) 投与経路：

外用にのみ使用すること。

(2) 使用時：

- 1) 原液が眼に入らないように注意すること。  
眼に入った場合には水でよく洗い流すこと。
- 2) 注射器、カテーテル等の神経あるいは粘膜面に接触する可能性のある器具を本剤で消毒した場合は、滅菌精製水でよく洗い流した後使用すること。
- 3) 本剤の付着したカテーテルを透析に用いると、透析液の成分により難溶性の塩を生成することがあるので、本剤で消毒したカテーテルは、滅菌精製水でよく洗い流した後使用すること。
- 4) 血清、膿汁等の有機性物質は殺菌作用を減弱させるので、濃度、消毒時間等に十分注意すること。
- 5) 石けん類は本剤の殺菌作用を減弱させるので、予備洗浄に用いた石けん分を十分に洗い落してから使用すること。
- ※6) 溶液の状態でも長時間皮膚と接触させた場合に皮膚化学熱傷を起こしたとの報告があるので、注意すること。

(3) 調製方法：

綿球・ガーゼ等は、本剤を吸着するので、これらを希釈溶液に浸漬して用いる場合には、有効濃度以下とならないように注意すること。

(4) 器具等材質：

器具類の消毒に使用する本剤の希釈水溶液には、必要に応じ防錆剤として亜硝酸ナトリウムを1g/L添加する。

※※【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に使用すること）

- (1) 薬物過敏症の既往歴のある患者
- (2) 喘息等のアレルギー疾患の既往歴、家族歴のある患者

2. 重要な基本的注意

- ※※(1) ショック、アナフィラキシー等の反応を予測するため、使用に際してはクロルヘキシジン製剤に対する過敏症の既往歴、薬物過敏体質の有無について十分な問診を行うこと。

## 5. その他の注意

クロルヘキシジングルコン酸塩製剤の投与により、ショック症状を起こした患者のうち、数例について、血清中にクロルヘキシジンに特異的なIgE抗体が検出されたとの報告がある。

### 【薬効薬理】

#### 抗菌作用

- (1)クロルヘキシジングルコン酸塩は広範囲の細菌に作用し、グラム陽性菌には低濃度でも迅速な殺菌作用を示す。
- (2)グラム陰性菌には比較的低濃度で殺菌作用を示すが、グラム陽性菌に比べ感受性に幅がみられる。グラム陰性菌のうち、*Alcaligenes*, *Pseudomonas*, *Achromobacter*, *Flavobacterium*, *Serratia* 属等には、まれにクロルヘキシジングルコン酸塩に抵抗する菌株もある。
- (3)芽胞形成菌の芽胞には効力を示さない。
- (4)結核菌に対して水溶液の殺菌作用は乏しいが、アルコール溶液では迅速な殺菌作用を示す。
- (5)真菌類の多くに抗菌力を示すが、全般的に細菌類よりも抗菌力は弱い。
- (6)ウイルスに対する効力は確定していない。

#### 〈生物学的同等性試験〉<sup>1)</sup>

ステリクロンW液0.1と標準製剤の殺菌効果について、*in vitro*の最小発育阻止濃度(MIC)法及び最小殺菌濃度(MBC)法により比較した結果、両剤の生物学的同等性が確認された。

### 【有効成分に関する理化学的知見】

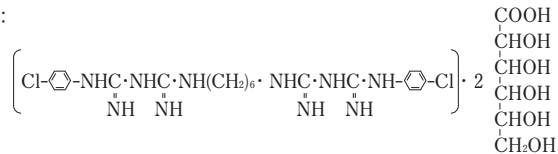
一般名：クロルヘキシジングルコン酸塩  
(Chlorhexidine Gluconate)

化学名：2,4,11,13-Tetraazatetradecanediimidamide, *N,N'*-bis(4-chlorophenyl)-3,12-diimino-, di-D-gluconate

分子式：C<sub>22</sub>H<sub>30</sub>C<sub>12</sub>N<sub>10</sub>・2C<sub>6</sub>H<sub>12</sub>O<sub>7</sub>

分子量：897.76

構造式：



性状：クロルヘキシジングルコン酸塩は、通常水溶液として得られ、その20w/v%液は、無色～微黄色の澄明な液で、においはなく、味は苦い。

水又は酢酸(100)と混和する。本品1mLはエタノール(99.5)5mL以下又はアセトン3mL以下と混和するが、溶媒の量を増加するとき白濁する。

光によって徐々に着色する。

比重  $d_{20}^{20}$ : 1.06～1.07

### 【取扱い上の注意】

#### 〈注意〉

- (1)希釈水溶液を調製する場合は、滅菌精製水を使用して滅菌することが望ましい。(高圧蒸気滅菌を行う場合は115℃30分、121℃20分、126℃15分で滅菌処理できる。)
- (2)本剤の付着した白布を直接、次亜塩素酸ナトリウム等の塩素系漂白剤で漂白すると、褐色のシミを生じることがあるので、漂白剤としては過炭酸ナトリウム等の酸素系漂白剤が適当である。

#### 〈安定性試験〉<sup>2)</sup>

最終包装製品を用いた加速試験(40℃、75%RH、6ヶ月)の結果、通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。

### 【包装】

500mL、1000mL、5L

### 【主要文献】

- 1)健栄製薬株式会社 社内資料：ステリクロンW液0.1の生物学的同等性について
- 2)健栄製薬株式会社 社内資料：ステリクロンW液の経時安定性について

### 【文献請求先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。

健栄製薬株式会社 学術情報部  
〒541-0044 大阪市中央区伏見町2丁目5番8号  
電話番号 (06) 6231-5626  
FAX番号 (06) 6204-0750